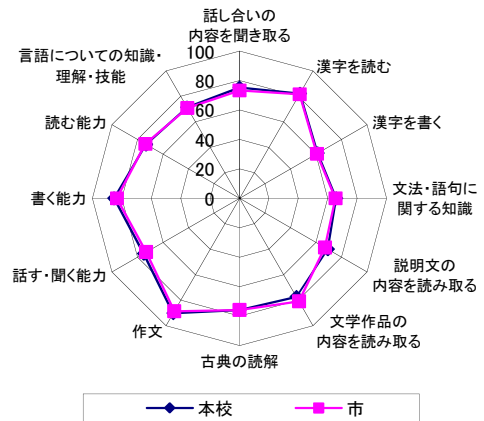


宇都宮市立陽東中学校 第2学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	75.2	73.3
	漢字を読む	82.1	81.5
	漢字を書く	61.2	60.6
	文法・語句に関する知識	65.6	65.2
	説明文の内容を読み取る	69.2	66.9
	文学作品の内容を読み取る	77.4	80.9
	古典の読解	76.0	76.0
	作文	90.2	88.6
観点別	話す・聞く能力	75.2	73.3
	書く能力	85.3	83.4
	読む能力	73.3	73.9
	言語についての知識・理解・技能	71.3	70.9



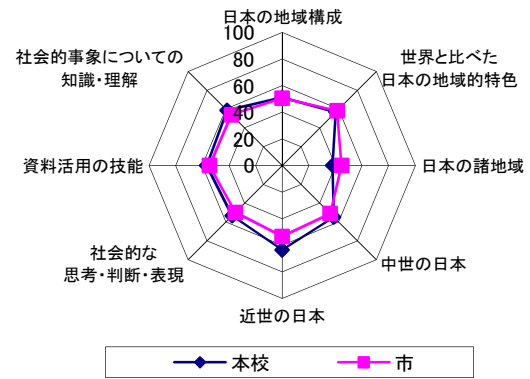
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	この領域の正答率は、市の平均より1.9ポイント高い75.2%という数値だった。特に(4)の記述を伴う問題では、市の平均31.5%に対し、本校の結果は35.8%と、4.3ポイント高い数値となっている。しかし正答率としては低いので、内容を聞き取り、理解することはできるが、聞き取った情報を自分の言葉でまとめる力が足りないことが分かる。	聞き取りのテストでは、内容を正確に聞き取り、選択して答える形式がほとんどである。内容を正確に聞き取るといった点では必要であるので、今後もテストは継続していく。ただし、聞き取った情報を自分の言葉でまとめる力を養うには、聞き取り問題だけでは無理なので、「書くこと」の能力を身に付ける指導が重要である。そのためには、普段の授業から、考えを短い文にまとめる作業に取り組ませるなど、「書くこと」の習慣化に重点を置いて指導する。
漢字	漢字の読み書き共に、市の平均から0.6ポイント上回っている。しかしながら微々たる差なので、市の平均的な正答率である。しかし、読みの正答率が82.1%であるのに対し、書きの正答率が61.2%という結果を見ても、書けるまできちんと覚えるという学習が足りないことが分かる。	基礎学力の定着のためには、漢字の練習も必要である。しかし現状は、自主学習で漢字の練習をしている生徒は少ない。本年度の状況を見ても、漢字の書きについての正答率は61.2%であり、漢字の書きに対して苦手意識をもっている生徒もいると考えられる。そこで、授業で漢字の小テストを行い、書けなかった漢字を練習させるなどし、書けない漢字をそのままにしないように重点を置いて指導する。
文法・語句に関する知識	この領域の正答率は市の平均よりも0.4ポイント上回っている。各設問においては、「用言の活用」についての問題で、正答率44.4%で、市の平均より0.9ポイント上回っているが、正答率が5割に満たないことから、用言についての知識が十分でない。やはり「文法」に対する苦手意識が強い。	今回の調査では、文法の領域で「用言の活用」や「敬語」についての出題だった。いずれについても正答率を見ると定着度が十分とはいえない。そこで、授業で基本を丁寧に押さえるとともに、家庭学習ではワークやプリントなどを使って、繰り返し復習問題を解くことで学力を定着させていきたい。授業時間だけでは限りがあるので、課題を与えることも含め、定着に向けて復習に重点を置いて指導する。
説明文の内容を読み取る	この領域の正答率は市の平均から0.23ポイント上回っている。「文章の展開に即して内容をとらえる」問題では、正答率81.0%の小問もあり、昨年に比べて説明文の読み取りの正答率が上昇した。ただし「文章の構成や展開を捉える」問題が少し弱く、市の平均からも1.6ポイント下回っている。	今回は選択問題のみだったが、内容を理解して選択肢から選ぶ力は備えられているようだ。今後は選択肢を養うことも、問題に対する答えを考えて、文章化できる力を養う必要がある。そのために、普段の授業の中でも自分の考えを書く機会を増やすことを重点に置いて指導する。
文学作品の内容を読み取る	この領域の正答率は市の平均から3.5ポイント下回っている。今回の調査では、登場人物の「心情」「様子」「心情の変化」をとらえる問題が出題されたが、特に「心情の変化」をとらえる問題が弱かった。市の平均と比べても、7.0ポイント下回っている。物語の展開によって、登場人物の心情が変化していく様子を読み取る力が弱い。	文学作品の内容を読み取るうえで、登場人物の心情や様子を読み取る力が必要なのは言うまでもない。作品中の表現をたよりに、どんな人物なのかを読み取るが、登場人物が人間である以上、心情の変化が必ずある。場面の展開に応じて、文章中の表現から登場人物の心情の変化を読み取る力が必要である。そのために、作品の構成を捉え、物語の展開に応じて、心情が変化していることを見つけられるように重点を置いて指導する。
古典の読解	市全体の平均と同じ正答率76.0%である。前回の定着度調査において、「古典の読解」は5.6ポイント下回っていたので、それから比べると基礎基本の定着が図れてきたと考えられる。しかしながら、古典に対する苦手意識は未だ感じられるので、興味をもって古典の授業に取り組めるような授業の工夫が求められる。	前年度と比べ、「古典の読解」の正答率がアップしたので、今後前年度の指導重点を踏まえた授業を進めていく。古典の解釈については2年次までの学習がその中心を占めるため、基礎・基本の徹底を図るとともに、慣れ親しむことができる課題や、練習問題を多く含んだ授業を展開するなど、興味を持って取り組むことができる授業に重点を置いて指導する。
作文	この領域の正答率は市の平均から1.6ポイント高い、90.2%だった。問題で指定された文字数や、指示された内容に対する答え方はできているようだ。しかし、「3段落構成で文章を書くことができる。」に関しては、他の項目よりも劣る、84.3%だった。自分で構成を考えて文章を書く力が少し弱い。	自分の考えを書くことだけにはできるようだが、構成を考えて分かりやすい文章を書く力がまだ弱いようである。文章には構成があり、どのように論を進めたら分かりやすく伝わる文章が書けるのかをよく理解させることが必要である。そのためには、授業においてある程度長い文章を書く機会をつくり、文章構成を意識して文章を書かせることに重点を置いて指導する。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	日本の地域構成	51.1	50.7
	世界と比べた日本の地域的特色	56.9	58.2
	日本の諸地域	37.9	44.6
	中世の日本	54.7	51.0
	近世の日本	63.4	53.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	53.3	49.8
	資料活用の技能	56.8	54.7
	社会的な事象についての知識・理解	58.6	53.9



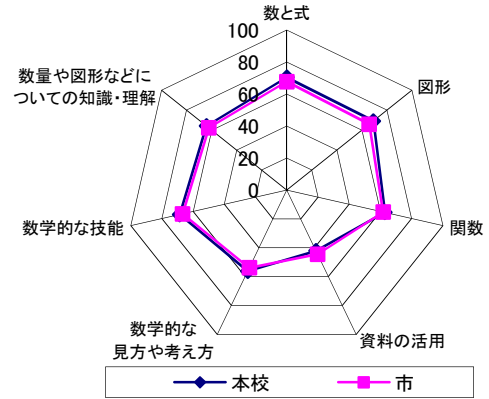
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点	
地理	日本の地域構成	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均と比べて0.4ポイント上回っている。日本のおおよその国土の位置を読み取る問題においては、76.4%と比較的高い正答率になっているが、日本と同緯度に位置する国々を読み取る問題では35.6%と、市の平均を6.8ポイント下回っている。また都道府県の名称と位置に関する問題についても32.6%と、市の平均を2.1ポイント下回ってかなり低い正答率であると言える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の地域構成については、小学校にて既習の内容ではあるものの、日常生活において身近な地域は関心があるが、関わり合いの少ない地域は興味関心が持ちにくい領域でもある。小学校の復習を兼ねて、日本全国をもう一度チェックしながら様々な結びつきをとらえて興味をもてる授業の展開が必要と考えられる。また、今後の学習内容である日本の諸地域とも関連づけた学習形態を模索しながらより理解を深めさせていく授業を展開していきたい。
	世界と比べた日本の地域的特色	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均と比べて1.3ポイント下回っている。世界の人口増加の背景についての問題は73.4%と市の平均正答率と比べ1.1ポイント高い。また、日本国内の時間・距離の変化を資料から読み取る問題も9.9ポイント上回った。しかし、他は全て市の平均を下回って、特に本州四国間の結びつきに関する資料の読み取りは31.3%とかなり低い正答率であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界と比べた日本の諸地域的特色の内容については、日常生活においての関連性があまり無く、生徒たちが興味を持ちにくい領域である。生徒たちの身近な生活の中での世界とのつながりを調べさせる学習を取り入れていきたいと考える。グローバルスタンダード社会に生きる生徒たちにとって、世界と日本の結びつきは今後、ますます重要な課題となってくるので、ワールドワイドな視野から、現代のさまざまな問題や世界の諸地域的特色について理解させていく授業を展開していきたい。
	日本の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均と比べて6.7ポイント下回っている。主題図から土地の利用を読み取る問題においては、31.3%と低い正答率であったものの、市の平均と比べ2.6ポイント上回った。しかし、全ての問題において50%を下回る低い正答率となっている。特に各地域の特色ある自然の問題については21.5ポイントも市の平均を下回っている。全国平均からは、45.6ポイントと大幅に下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の諸地域の内容については日常生活との関連性も高く、生徒たちの関心も高い領域である。小学校において基礎的な内容を学習しているので生徒たちの既習知識を大いに活用していきたい。自然などの環境問題についても考察しながら学習を進めていく必要性があったが、白地図などの作業学習に偏ってしまった点があったので、自分たちが生活している地域の自然との比較や関連性にも気づかせ、さまざまな地理的事象を理解させながら、今後の授業展開の工夫をしていきたいと考える。
歴史	中世の日本	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均と比べて3.7ポイント上回っている。中世の出来事や流れに関する問題においては65.7%の正答率で市の平均と比べ12ポイントも上回っている。しかし、永仁の徳政令が出された背景を資料を使って読み取る問題の正答率は39.5%と市の平均と比べ1.9ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書による資料提供及び資料集以外にもインターネットなども活用し、生徒たちに写真資料から考えさせる課題を設けて資料活用の学力を高めていきたい。またグループワークなどの授業も取り入れ、他の生徒の意見を参考にして自分の考えをまとめる作業を取り入れることにより、その時代背景などを考察しながら、各自の考えを記述による表現していく力を高めたい。
	近世の日本	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均と比べて10.1ポイント上回っている。織田信長の宗教に関する政策や豊臣秀吉の太閤検地や兵農分離、江戸時代における貨幣経済の発達について、資料の読み取り問題など市の平均を10ポイント以上大幅に上回っている問題もある。しかし、大阪が繁栄した理由を資料から読み取り説明する問題においては、45.1%と50%を割る正答率の低さがあり、記述による表現を苦手とする傾向があることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近世の日本は生徒たちの興味関心が高い領域である。テレビなどの番組で取り上げられることも多く、生徒たちの中には戦国時代や江戸時代について高い知識を習得している生徒も多い。特に織田信長、豊臣秀吉、徳川家康といった著名な人物について社会科新聞を作成させるなどの学習を取り入れ、歴史の奥深い面をを各自で探究させ、自由な表現方法によって作品を仕上げる授業を展開していきたい。このことにより、記述や表現の苦手意識を改善させていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	70.4	67.7
	図形	69.1	65.9
	関数	62.8	61.7
	資料の活用	42.1	44.4
観点別	数学的な見方や考え方	56.3	53.9
	数学的な技能	68.6	66.7
	数量や図形などについての知識・理解	64.2	62.3



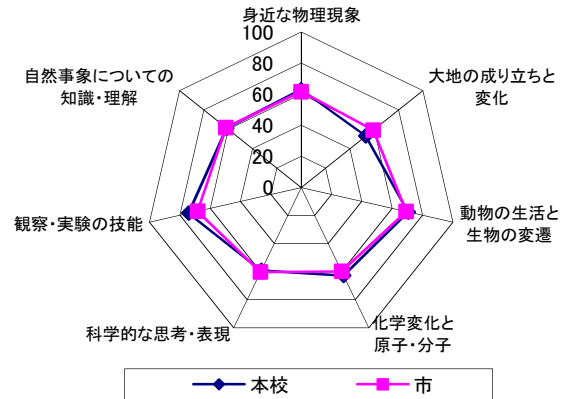
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>・市の平均と比べると、2.7ポイント高い。内容を分析してみると、「等式を変形して、式をある文字について解くこと」が5.2ポイント、「与えられた文章題に対して、適切な連立方程式を立式すること」が2.7ポイント低いことがわかる。これ以外の設問では、全て市の平均を上回っていて、おおむね良好である。</p>	<p>・等式の変形は、等式の性質の使い方を指導し、逆算の考え方も取り入れながら解法別に問題練習を繰り返し、式の変形の仕方を身に付けさせたい。</p> <p>・文章問題の立式は誰もが苦手になっている内容である。問題文から等しい関係を表している文を見つけさせることと、それを文字式で表現する指導を問題の種類ごとに練習させたい。</p>
図形	<p>・市の平均と比べると、3.2ポイント高い。内容を分析してみると、「球の体積を求める式を選ぶこと」が0.2ポイント低いことがわかる。これ以外の設問では、全て市の平均を上回っているが、「同じ底面で高さも等しい柱体と錐体の体積の関係」についての理解が、33.2%と低い傾向が見られる。体積の公式について基本的な知識に関する学習内容の復習が不十分であることが考えられる。全体的には、平面図形はよく理解されていると思われる。</p>	<p>・球の体積の公式については、どうしてそのような公式が導かれるのかに重点をおいて指導していくことで、理解を確かなものにしていきたい。また、「同じ底面で高さも等しい柱体と錐体の体積の関係」については、教材を使った実演を通して2つの関係を強く印象づけたい。</p> <p>・語呂合わせなどで公式の覚え方を教え、練習問題を通して公式の使い方を定着させたい。</p>
関数	<p>・市の平均と比べると、3.2ポイント高い。内容を分析してみると、「与えられた1次関数の式から、グラフの傾きと切片を求めること」が1.7ポイント、「2点の座標から1次関数の式を求めること」が0.8ポイント、「1次関数の式から、1次関数のグラフをかくこと」が0.7ポイント、「2直線の交点の座標を求めること」が0.8ポイント低いことがわかる。式の中で、傾きと切片を逆に覚えてしまったり、グラフ上での傾きの意味の理解が不足していたと考えられる。</p>	<p>・関数における用語は、式・表・グラフの関係を考えながら意味や役割を理解していくことが大切である。授業では、この3つの関連性を意識させる場面を意図的に設定し、繰り返し指導することで理解を深めさせたい。</p> <p>・2直線の交点の座標を求めることは、連立方程式を確実に解けることが関係している。yが簡単に消去できることを理解させ、反復練習をさせていきたい。</p>
資料の活用	<p>・市の平均と比べると、12.7ポイント低い。内容を分析してみると、「有効数字について正しく理解し、ある距離の測定値を10の累乗を使った形に表すこと」が4.3ポイント、「資料に極端な数値がある場合の代表値について」が3.1ポイント低いことがわかる。有効数字や代表値などの基礎的な学習内容の復習が不十分であることが考えられる。</p>	<p>・物の長さを実測させることから有効数字について理解させ、表し方を丁寧に指導して確実に理解させたい。</p> <p>・代表値の種類やそれぞれの意味について具体的な場面の中で指導し、問題練習を通して確実に定着させたい。</p>

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	身近な物理現象	62.8	61.6
	大地の成り立ちと変化	53.1	59.1
	動物の生活と生物の変遷	70.6	69.2
	化学変化と原子・分子	62.7	59.8
観点別	科学的な思考・表現	59.1	60.3
	観察・実験の技能	74.2	68.3
	自然事象についての知識・理解	61.1	61.8



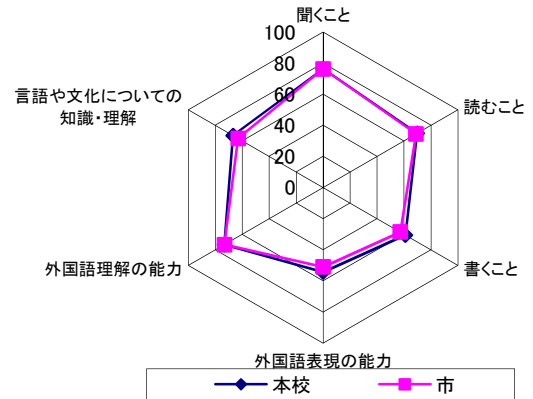
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	<p>・市全体の平均と比べ、1.2ポイント上回っている。具体的には、「光と音の性質」で4.2ポイント高いのに対して、「力と圧力」では1.7ポイント低い。イメージのしにくい、また、計算を必要とする学習内容の定着が不十分な面がみられる。</p>	<p>・「身近な物理現象」については、日常生活で経験していることもあり、比較的興味・関心は高い。しかし、その中でも定着が不十分であると思われる目に見えにくい事象に関しては、イメージを膨らませる必要があることから、様々な例を挙げながら学習に取組ませていきたいと思う。</p>
大地の成り立ちと変化	<p>・市全体の平均と比べ、6.0ポイント下回っている。具体的には「火山活動と火成岩」で9.0ポイント、「地震」で7.6ポイント、「地層の重なり」で2.5ポイント低い。1学年での内容の定着が不十分な面がみられる。</p>	<p>・日本の特色ともいえる火山や、近年、大規模に発生した地震についての学習内容であるが、教室での再現が難しい学習内容でもあるため、様々な種類の教材を使い、自分たちの生活に即した事象であることをしっかりと認識させるようにしながら学習させたいと思う。</p>
動物の生活と生物の変遷	<p>・市全体の平均と比べ、1.4ポイント上回っている。具体的には、「生物と細胞」「動物のからだのつくりとはたらき」がそれぞれ10.1ポイント、7.3ポイント高いのに対し、「動物の分類・生物の変遷と進化」が9.5ポイント低い。図や文章をしっかり読みこむ必要がある学習内容の定着が不十分な面がみられる。</p>	<p>・特徴を比較したり、文章から特徴を読み取ったりする力が必要とされる部分でもあるので、数多く類似問題などを提供し、丁寧に指導することで定着を図りたいと思う。</p>
化学変化と原子・分子	<p>・市全体の平均と比べ、2.9ポイント上回っている。具体的には、「物質の成り立ち」が0.2ポイント低く、「化学変化」「化学変化と物質の質量」がそれぞれ、7.4ポイント、7.9ポイント高い。物質と成り立ちのように、イメージを膨らませてそこから推察するような学習内容の定着がやや不十分な面がみられる。</p>	<p>・目には見えないような原子や分子をイメージし、その組み合わせを推察して考える力が必要とされる学習内容であるので、モデルなどを使ってイメージをしっかりと固められるような指導を心掛けたいと思う。</p>

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	76.3	76.2
	読むこと	69.7	68.9
	書くこと	61.0	57.2
観点別	外国語表現の能力	54.3	51.0
	外国語理解の能力	73.4	73.4
	言語や文化についての知識・理解	66.9	63.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	対話の内容を聞き取り、応答する問題においては、市の平均を大きく上回っている。しかし、1(3)絵を適切に表現している英文を聞き取る問題では、市の平均より5ポイント以上下回っており、全体ではわずか0.1ポイント上回る程度となった。	様々な種類の問題に対応できるよう、授業中、教師の話す英語だけでなく、CDやALTの英語も積極的に聞かせるようにする。また、スピードのある英文も、それぞれの単語として理解ができるように、音のつながりを意識した、教科書本文の音読指導を繰り返していきたい。
読むこと	全体で市の平均を0.8ポイント上回っており、語形や語法・語彙における基本的な知識や理解は、すべて市の平均よりも上回っている。一方、英文資料の情報・条件をもとにした問題や、対話の流れやグラフからの読み取りの問題では、市の平均を下回るのものが多くなっており、発展や応用の問題の正答率が低くなっている。	基本的な語彙や語法についての知識や理解は概ね身に付いているものの、それらを総合的に利用した発展的な問題が苦手な生徒が多い。英文やグラフの情報を的確に把握しながら読み進められる力を身に付けるため、長文読解の単元である教科書のUSE Readを扱う際には、ワークシートを手掛かりとなる手立てや工夫をし、読み解く練習を繰り返していきたい。また、教科書以外の長文に触れる機会を増やしていきたい。
書くこと	全ての小問において市の平均を上回っており、全体では3.8ポイント上回っている。特に、8(4)並べ替えの問題では9.7ポイント、9(2)許可を求める英作文の問題では7.9ポイント、と市の平均を大きく上回った。	英文を正しく並べ替えたり、場面に応じた英文を作る力は概ね身に付きつつあるが、完全な理解に至っていない生徒も多い。小テストやワークシートの添削をこまめに行うことによって、間違いをその都度生徒へフィードバックし、作文力の向上を目指したい。